

Canon

RF

70-200mm F2.8 L IS USM Z

使用説明書

JPN

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノン RF70-200mm F2.8 L IS USM Z は、EOS Rシリーズカメラ用の大口径望遠ズームレンズです。

- ISはImage Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- USMはUltrasonic Motor（超音波モーター）の略称です。

カメラのファームウェアについて

お使いのカメラのファームウェアは最新のバージョンにしてください。ファームウェアの最新バージョンの有無やアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる可能性のある注意事項などが書いてあります。




基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や障害の発生を防ぐためにお守りください。

 **警告** 死亡や重傷を負う可能性がある内容です。

- レンズを通して、太陽や強い光源を直接見ないでください。失明の原因となります。
- レンズキャップを取り付けていないレンズを、日光下に放置しないでください。レンズに入った太陽光が集まり、故障や火災の原因となります。

 **注意** 傷害や、製品以外の物的損害を負う可能性がある内容です。

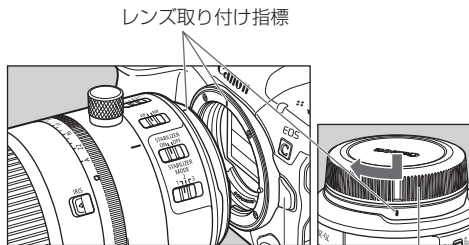
- 製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。製品に触れるとやけどやけがの原因となります。
- 三脚を使うときは十分に強度があるものを使ってください。
- 三脚座つまみはしっかり締めつけてください。
- 持ち運ぶときは、三脚座つまみがしっかりと締めつけられていることを確認してから丁寧に運んでください。製品が落下して、故障やけがの原因となります。

一般的なご注意

取り扱い上のご注意

- 日光下の車の中など、高温となる場所に製品を放置しないでください。故障の原因となります。
- レンズを寒い場所から暖かい場所に移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かい場所から寒い場所に移すときも、同様にしてください。
- 適切な絞り制御のため、絞り優先AEやマニュアル露出などの絞り数値を指定した撮影時であっても、ズームングやピント合わせによって絞り羽根が動くことがあります。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

1. レンズの取り付け／取り外し



レンズロック解除ボタン ダストキャップ

レンズの取り付け方


レンズ側とカメラ側のレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。

レンズの取り外し方

カメラのレンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを反時計方向に回します。回転が止まるまで回してから取り外します。

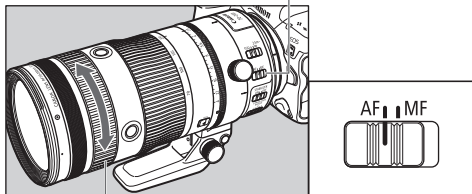
詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。
- レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、レンズマウント側を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。ダストキャップを取り付けるときは、レンズ側とダストキャップ側の取り付け指標を合わせてください。
- 接点に傷、汚れ、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因になり、動作不良を起こすことがあります。汚れなどが付いたときは、柔らかい布で接点を清掃してください。
- 防塵・防滴性能の向上のために、このレンズではレンズマウントにゴムリングが付いています。このゴムリングにより、カメラのレンズマウント周辺に細い擦れ跡が付くことがありますが、使用上の問題はありません。

-  ゴムリングはキヤノンサービスセンターで交換できます。(有料)

2. フォーカスモードの選択

フォーカスモードスイッチ



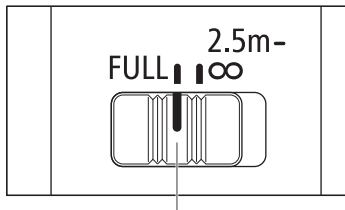
フォーカスリング

オートフォーカス (AF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをAFにします。
マニュアルフォーカス (MF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをMFにし、フォーカスリングを手で回してピントを合わせます。

- フォーカスリングを急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。
- このレンズのフォーカスリングは電子式です。
- 電子式フルタイムマニュアルフォーカス対応のカメラでは、カメラ操作可能な状態で、マニュアルフォーカスができます。ただし、カメラの設定変更が必要です。
- カメラのAF動作がワンショットAFのとき、AFのあとシャッターボタン半押し状態で、マニュアルフォーカスができます。(電子式手動フォーカス機能) ただし、カメラの設定変更が必要です。
- 動画撮影時は、静止画撮影時よりもAF速度が遅くなります。動画サーボAFを [する] に設定すると、カメラ側でAF速度の調整を行うことができます。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

3. 撮影距離範囲の選択



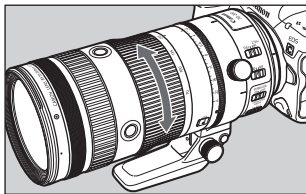
撮影距離範囲切り換えスイッチ

撮影距離の範囲をスイッチで選びます。撮影距離に応じて選ぶことで、意図しない距離の被写体にピントが合うことを防ぎます。

撮影距離範囲

- ① FULL
レンズの焦点距離によって最短撮影距離が変わります。
70mmの時：0.49m-∞
200mmの時：0.68m-∞
- ② 2.5m-∞

4. ズーミング

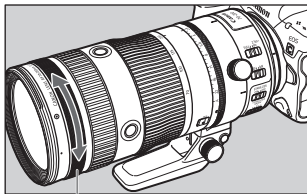


ズームリングを手で回してズーミングします。

- ピント合わせはズーミングしたあとで行ってください。ピントを合わせてからズーミングすると、ピント誤差が生じることがあります。
- ズームリングを急回転させた場合、一時的にピントがボケることがあります。

5. コントロールリング

コントロールリングは、シャッター速度や絞り数値の設定など、カメラでよく使う機能を割り当てて使います。



コントロールリング

コントロールリングは回すとクリックがあり、回した量が分かるようになっています。コントロールリングの使い方について、詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。



- コントロールリングの操作音は動画撮影中に録音されることがあります。

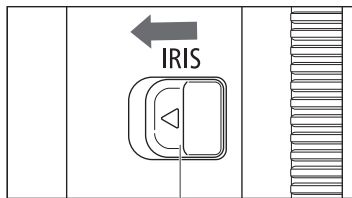


- キヤノンサービスセンターで、コントロールリングのクリックを無くすことができます。(有料)
- カメラの設定変更により、フォーカスリングをコントロールリングとして使用することができます*。ただし、フォーカスリングをコントロールリングとして使用しているときは、元のコントロールリングは操作が無効となります。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

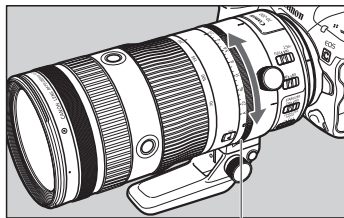
* EOS R、RP、Ra、R5、R5C、R6は除く

6. マニュアル／オート絞り操作

アイリスリングによる絞り数値の設定が可能です。出荷時は、オート絞り操作に設定されています。



アイリスリングロック解除スイッチ



アイリスリング

マニュアル絞り操作

- 1 アイリスリングロック解除スイッチを矢印の方向にスライドさせながら、アイリスリングを回して、指標を2.8から22の間に合わせます。
- 2 アイリスリングを回して絞り操作を行います。

オート絞り操作

- 1 アイリスリングロック解除スイッチを矢印の方向にスライドさせながら、アイリスリングを回して、指標をAに合わせます。
- 2 カメラからの指令信号により絞りが動作します。

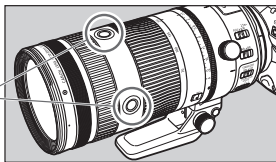
マニュアル／オート絞り操作

- アイリスリングによってマニュアル絞り操作を行う場合、カメラに表示される絞り値と実際の絞り値が異なる場合があります。
 - 一部のカメラ*1*2では、以下の制限があります。
 - ・ 静止画撮影時には、アイリスリングで絞り数値の設定をすることができません。
 - ・ 動画撮影時には、アイリスリングを操作するとオートフォーカスで被写体にピントが合いにくい場合があります。さらに、カメラに表示される絞り値と実際の絞り値が異なる場合があります。
- *1 EOS R、RP、Ra、R3、R5、R6、R6 Mark II、R7、R8、R10、R50、R100
*2 EOS R5Cでは、静止画撮影時にのみ制限があります。

7. レンズファンクションボタン (AFストップボタン)

レンズファンクションボタンは初期状態ではAFストップボタンとして機能します。カメラの[ボタンカスタマイズ]の設定により、他の機能を割り当てることもできます。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。



レンズファンクション
ボタン (AFストップ
ボタン)

AFストップボタンとして使う

AF中にAFストップボタンを押すと、AFは一時的に停止し、離すとAFは再開します。

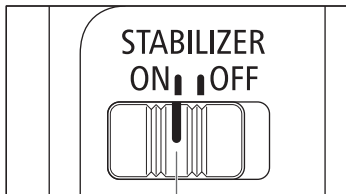
撮影距離を保持したいときや、サーチ駆動を避けたいとき、AFストップボタンを押します。

AFストップボタンを押したままでシャッターボタンを押すと、その撮影距離で撮影できます。

●主にAF動作がサーボAFのときに便利です。

8. 手ブレ補正機能

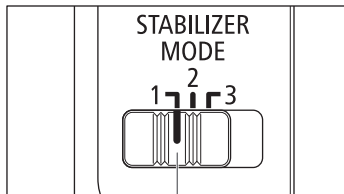
手ブレ補正は、手持ち撮影で生じるブレを補正します。



手ブレ補正スイッチ

1 手ブレ補正スイッチをONにします。

- ボディー内手ブレ補正機構搭載のカメラと組み合わせると協調制御を行います。
- 手ブレ補正を使わないときは手ブレ補正スイッチをOFFにします。



手ブレ補正モード選択スイッチ

2 用途、状況に応じて手ブレ補正モードを選びます。

手ブレ補正モード

- MODE 1：全ての方向の手ブレを補正します。
主に静止した被写体の撮影に適しています。
- MODE 2：水平、または垂直にカメラを振ったとき、振った方向と直交する手ブレのみを補正します。
動く被写体の撮影に適しています。
- MODE 3：露光中はMODE 2と同じように手ブレを補正します。
露光中のみ手ブレを補正するため、不規則に動く被写体の撮影に適しています。

手ブレ補正機能

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影に適しています。

MODE 1

主に静止した被写体の撮影



- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボが使えない場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使えない状況

MODE 2

動く被写体の撮影



- 自動車や鉄道などの流し撮り

MODE 3

不規則に動く被写体の撮影



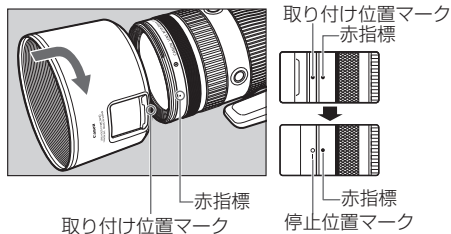
- サッカーやバスケットボールなどのスポーツ撮影
- 動物などの撮影

手ブレ補正機能

- 被写体が動くことによって生じるブレは補正できません。
- 次のような条件では、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
 - ・ 大きな揺れや速い振動のとき
 - ・ MODE 1で流し撮りをしたとき
- シャッター方式の設定を変更できるカメラを使用する場合、手ブレ補正効果を十分に発揮させるために、[電子先幕] もしくは [電子シャッター] の使用*をおすすめします。
 - * EOS Rを使用の場合は、LVソフト撮影の設定で初期設定の [モード1] もしくは、[モード2] を選択するか、サイレントシャッターの設定で [する] を選択します。
- 三脚を使用した場合は、三脚の種類や設置条件および装着するカメラのシャッタースピードの設定などにより、手ブレ補正の効果が十分に得られない場合や、手ブレ補正スイッチをOFFにした方がよい場合があります。
- 一脚を使った場合も手ブレ補正は働きますが、撮影条件によっては補正効果が十分に得られないことがあります。
- 動画撮影時は、手ブレ補正機能の動作が異なります。
 - ・ ボディー内手ブレ補正機構搭載のカメラに装着しているときは、手ブレ補正モードの選択に関わらず、全ての方向の手ブレを補正します。
 - ・ ボディー内手ブレ補正機構を搭載していないカメラに装着しているときは、手ブレ補正モードをMODE 3にすると、手ブレ補正が働きません。

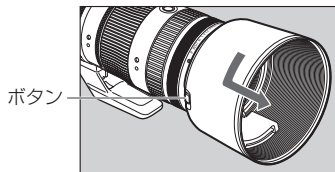
9. フード

専用のフードは、フレアやゴーストの原因となる不要光をさえぎるとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



フードの取り付け方

フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標を合わせ、フードを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。



フードの取り外し方

フードの側面にあるボタンを押しながら、フードの取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標が合うまで、フードを矢印の方向に回して取り外します。

収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。

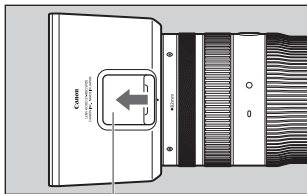


- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元付近を持って回してください。フードの先端付近を持つと変形して回らなくなることがあります。
- レンズにパワーズームアダプター、レンズホルダー、サムレストのいずれかを取り付けているときは、フードをレンズに逆向きにかぶせることができません。

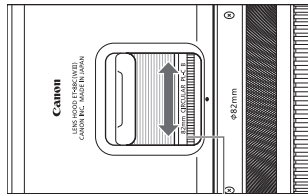
フード

フードに設けられたフィルター調整窓を開けることによって、フードを取り付けたまま円偏光フィルターを調整することができます。

フィルター調整窓について



フィルター調整窓



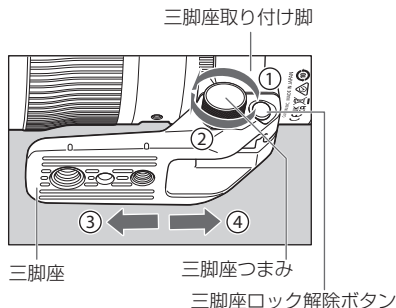
円偏光フィルター

- 1 フードに設けられたフィルター調整窓をスライドさせて開けます。
- 2 開けたフィルター調整窓から円偏光フィルターを調整します。

- 円偏光フィルターの取り付け/取り外しは、フードを取り外して行ってください。
- 撮影はフィルター調整窓を閉めて行ってください。

10. 三脚座の使用法

三脚または一脚は、レンズの三脚座に取り付けます。



三脚座の取り外し

- 1 三脚座つまみを、矢印①の方向へ回します。
- 2 三脚座ロック解除ボタンを押しながら三脚座を矢印③の方向にスライドさせて取り外します。

三脚座の取り付け

- 1 三脚座を矢印④の方向にカチッと音がするまでスライドさせます。
- 2 三脚座つまみを矢印②の方向へ動かなくなるまで回します。
三脚座つまみが動かなくなったところから、さらにしっかりと締め付けてください。

- 三脚座を取り付ける場合には、三脚座がガタつくことがないように、三脚座つまみをしっかりと締め付けてください。締め付けが不完全な場合、レンズが落下する恐れがあります。
- 三脚座の取り付けにガタつきがあると、三脚や一脚を使用して撮影しても、撮影画像にブレが発生することがあります。
- 三脚座は図に示す方向に取り付けてください。他の方向には取り付ける事はできません。

レボルビング（回転）

画面切り換えロックつまみをゆるめると、カメラごと任意に回転させて画面の縦位置と横位置が変えられます。

11. エクステンダー（別売）

エクステンダー RF1.4×およびRF2×を使うと、被写体をより大きく撮影できます。エクステンダーを使った場合のレンズの仕様は次のようになります。

RF1.4X		ワイド端	テレ端
焦点距離(mm)		98	280
絞り数値		F4~F32	F4~F32
画角	水平	20°50'	7°20'
	垂直	13°50'	4°55'
	対角	25°20'	8°50'
最大撮影倍率(倍)		0.28	0.42

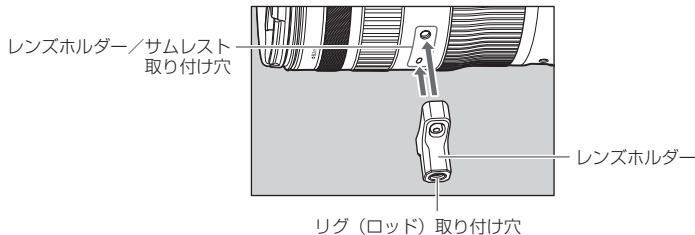
RF2X		ワイド端	テレ端
焦点距離(mm)		140	400
絞り数値		F5.6~F45	F5.6~F45
画角	水平	13°40'	5°10'
	垂直	9°10'	3°30'
	対角	16°20'	6°10'
最大撮影倍率(倍)		0.4	0.6

- レンズにエクステンダーを取り付けた後、カメラに取り付けてください。取り外しは逆の手順で行ってください。
- エクステンダーは2つ以上重ねて使えません。
- エクステンダー装着時にアイリスリングによるマニュアル絞り操作を行う場合、アイリスリングで設定した絞り値にエクステンダーの倍率を掛けた絞り値が実際の絞り値となります。

- エクステンダーを使った場合は、制御性を考慮してAF速度を遅くしています。

12. レンズホルダー LH-E1（別売）

安定した撮影を行って頂くために、キヤノン製のレンズホルダー LH-E1（別売）をレンズに取り付け、リグ（ロッド）に固定して使用することをおすすめします。



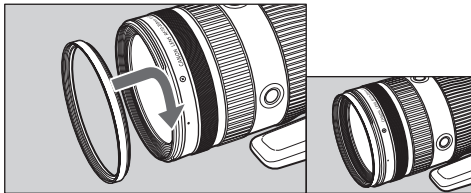
レンズホルダーの取り付け方

- 1 レンズホルダー／サムレスト取り付け穴に、六角レンチを使用してレンズホルダーを取り付けます。
 - 2 レンズをカメラに取り付けます。
 - 3 レンズホルダーのリグ（ロッド）取り付け穴に市販品のリグ（ロッド）を取り付けます。リグ（ロッド）の取り付け方法は、リグ（ロッド）の使用説明書をご覧ください。
- レンズホルダーの取り外しは、逆の手順で取り外します。

! ● レンズホルダーの取り付けと取り外しは、レンズをカメラから取り外した状態で行ってください。

13. フィルター（別売）

フィルター（φ82）は、レンズ先端のフィルター取り付けねじ部に取り付けます。

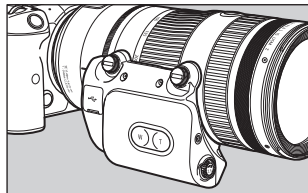


- フィルターは1枚のみ使えます。

14. パワースームアダプター（別売）

本レンズにパワースームアダプター PZ-E2、PZ-E2Bを装着して電動でズームすることができます。

使用方法は、PZ-E2、PZ-E2Bの使用説明書を参照してください。



主な仕様

	外觀色	
	ホワイト	ブラック
焦点距離・明るさ	70-200mm F2.8	
レンズ構成	15群18枚	
開放絞り数値	F2.8	
最小絞り数値	F22	
画角	水平29°～10°、垂直19°30'～7°、対角34°～12°	
最短撮影距離	0.49m (70mm時)、0.68m (200mm時)	
最大撮影倍率	0.3倍 (200mm時)	
画界	約180×120mm (70mm、0.49m時) 約120×80mm (200mm、0.68m時)	
フィルター径	82mm	
最大径×長さ	約88.5×199mm	
質量	約1115g (三脚座を含まず)	約1110g (三脚座を含まず)
フード	ET-88C(WIII)*	ET-88C(B)*
レンズキャップ	E-82 II*	
レンズダストキャップ	レンズダストキャップRF*	
ケース	LZ1328*	

* レンズに同梱されていますが、単品でも購入できます。

主な仕様

- レンズの長さはレンズマウント面からレンズ先端までの寸法です。
付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは寸法表示+24mm になります。
- 最大径×長さ・質量は本体のみの値です。
- クローズアップレンズ250D/500Dは使用可能なサイズがありません。
- 記載データはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打ち切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の機種への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、お手持ちの消耗品や付属品をご使用いただけなくなることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEOSホームページ
[canon.jp/eos](https://www.canon.jp/eos)

キヤノンお客様相談センター
0570-08-0002

(つながらないときは 03-6634-4264)

受付時間〈平日/土〉9:00～17:00

(12月31日から1月3日は、休ませていただきます。)

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon